

ディボーション

静まって待つ



日 118/168
Word from the Word
著者 デレク・プリンス

これはデレク・プリンスがあなたにお届けする、御言葉からのメッセージです。

> 「主よ。私の心は誇らず、私の目は高ぶりません。及びもつかない大きなことや、奇しいことに、私は深入りしません。まことに私は、自分のたましいを和らげ、静めました。乳離れした子が母親の前にいるように、私のたましいは乳離れした子のように私の前におります。」

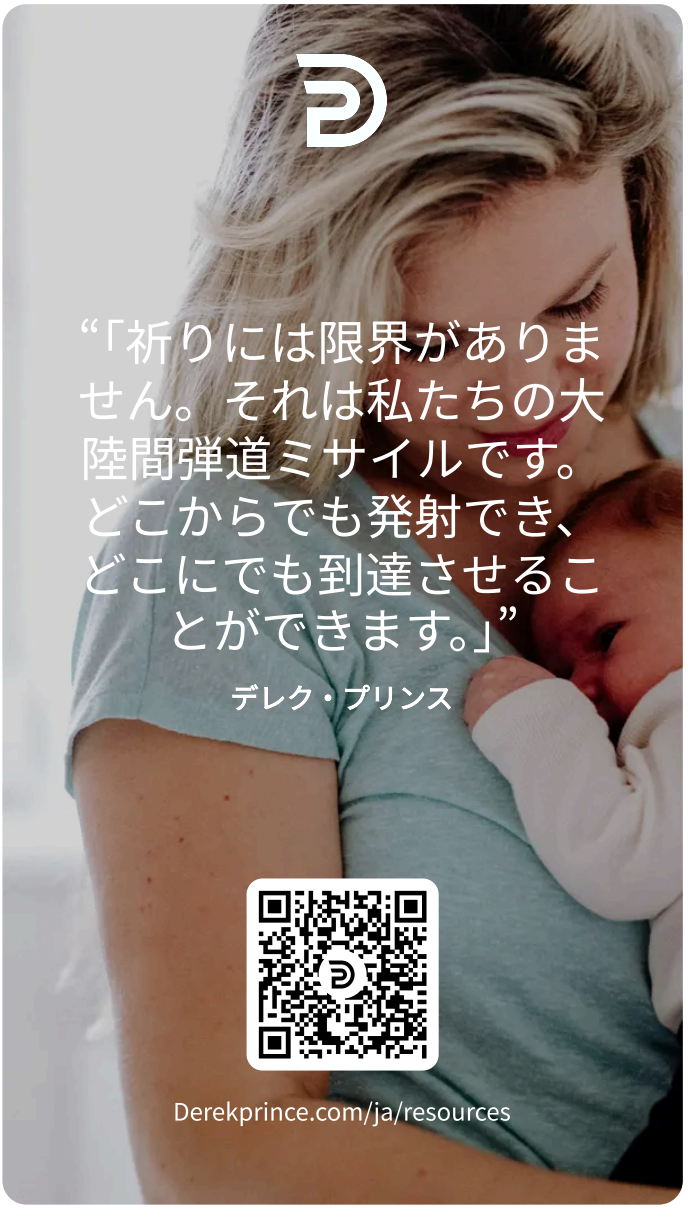
私は、女性が人前でも平気で赤ちゃんに授乳する国に住んでいたことがあります。赤ちゃん連れの母親のために、前列２列が確保されているアフリカの教会でメッセージをしたときのことです。一人の赤ん坊が泣き始め、私の目の前で母親が授乳し始めました。その時、この詩篇の作者が、もはや乳飲み子のようではないと言ったことを実感できました。作者は泣いて、すぐに神に何かを要求しません。彼は乳離れしています。乳離れした子どもと、そうでない子どもの違いは何でしょうか。

一般的に、乳離れしていない子どもは、泣いて即座に母親からの乳を期待しますが、乳離れしている子どもは、母親が食事を与えてくれることを知っているので、食卓に食べ物が用意されるまで待つことができます。私たちの神への態度もそのようであるべきです。自分の状況や問題で絶えず神を煩わせるのではなく、神を信じ、時にかなったふさわしいものが食卓の上に置かれるまで待ち望むべきです。私は、経験によってそのことを学びました。

泣き叫んで神を煩わせるのではなく、神が定めた時に私のために用意してくだっている啓示を受け入れる時、私はさらに多くのものを神からいただくことができるのです。

© 1970 - デレク・プリンス・ミニストリーズ・インターナショナル・インク

ディボーション ★
原稿: WD-WFTW-118-JPN
最終更新日: 24 Sept 2026
ウェブサイト: Derekprince.com/ja/resources



© 1970 - デレク・プリンス・ミニストリーズ・インターナショナル・インク